



焼津まちの駅新聞

平成 21 年 9 月号 発行：焼津まちの駅ネットワーク焼津

事務局：焼津商工会議所（焼津市焼津 4-9-1 TEL054-628-6251

おもてなしの心で
まちづくりを



平成 21 年度事業の取り組み 第 11 回 駅長会議報告

7 月 17 日開催の駅長会議で全部の駅が 4 グループのいずれかに所属して事業を遂行していくことが確認されました。

1. 歴史文化グループ
焼津の歴史や伝統ある食文化の研究、市外から見た焼津の話の聞く会を設ける
2. 広報グループ
焼津まちの駅新聞を定期的に発行する。配布は商工会議所で各駅に配布し、内容はホームページにアップする。
3. 交流グループ
駅同士の交流を活発にする
4. 接遇グループ
おもてなしをする公共の場の清掃活動をおこなう。
焼津の「魚釣りの穴場・隠れたデートスポット」情報提供



まちの駅とニューツーリズム

まちの駅ネットワーク焼津 関 幸彦

1980年代のバブル経済までは「施設型」観光が主流でした。地域にある観光施設・ホテルは大型化の傾向をたどり、自然との共生、地域づくりと言う観点があり意識されることなく、地域とかけ離れたところで増え続け、行き詰まった。90年代になると、「まちづくり・地域づくり」が重要視され、ニューツーリズムが取り上げられ、旅行者の意識変化と共に、地域にあるすべてのものが観光資源になるとの考え方から、湯布院、黒川、小布施、長浜等の地域づくりを主体するところが脚光を浴びている。これは、近江商人の共通理念、売り手よし、買い手よし、世間よし、の「三方よし」の教えと共通し、「世間よし」は地域づくり、CSRの原点と言える。まちの駅のトイレ・休憩所の提供はCSRの実行であり、訪れる人との交流が促進される仕組みが、エコミュージアム(焼津まるごと博物館構想)部会の「まちの案内人」の活動で補われれば、地域全体を見つめたまちづくりネットワークを形成することになる。目指すところは住民の衆知を集めて実行する。「持続可能な地域作り」である。

県内 7 地域連携 「静岡県まちの駅ネットワーク」設立

富士・焼津・ゆい・岡部・江尻・芝川・富士宮の 141 駅

去る 7 月 12 日に静岡市清水区の由比生涯学習交流館で設立総会を開きました。

焼津から関代表・お茶の駅飯塚さん、焼津市商工観光課久保山、武藤、八木の 3 氏と山下、山本アドバイザーが出席しました。由比のまちの散策と鯨のたたきづくりを体験、静岡県観光政策室池谷室長の講演「空港開港に伴う静岡県の観光交流の展望とまちの駅を活かした着地型観光のすすめ」がおこなわれました。まちの駅事業の普及、情報発信力、観光満足度の向上、地域コミュニティーの維持再生などを活動目標とする設立宣言が発表されました。焼津のまちの駅活動報告は山下アドバイザーが「おつかいにチャレンジ」について発表しました。(アドバイザー 山本記)



「カッパの駅」では河童にゆかりの品物を集め続けている北野龍雄さんがこのほどギネスブックに河童グッズの収集点数世界一として認定されました。1億円は投じたというコレクションは1万点は超え、このうち7854点について申請し認定されました。まちの駅の皆さんも是非一度見に行ってください。おめでとうございます。